

## 自由民主党県連幹事長会議における挨拶

八〇年新体制の出発

(昭和五十五年五月二十三日 自由民主党本部)

### 三つの安全 一つの誓い

全党の同志諸君。

わが党は結党以来、未曾有とも言うべき試練のときをむかえた。きたるべき衆参両院選挙の結果は、党の存立を左右することはもとより、わが国の命運にとつても極めて重大である。

昭和三十年の結党の際、われわれが目ざしたのは、戦争の廃虚の中からようやく立ち上がったわが国を、一日も早く先進諸国並みの経済社会水準に発展充実させることであった。以来、二十五年、わが党は今日ほぼこの目標を達成した。国民生活も飛躍的に向上した。当時与党間に存在していた外交防衛上の争点についても、わが党の路線は、ようやく国民的理解を得つつある。これは、偉大な業績である。わが党は所期の役割を果たし、戦後政治において誇るに足る成果をあげたと言える。

だが、近年にいたって、時代は大きく変わった。戦後世界の発展を支えた基本秩序は動揺を示し、地球上の資源の制約は経済社会の基本的諸条件を変化させた。相次ぐ衝撃が世界の諸国を襲ったが、わが国はこの衝撃の影響を最も鋭く受ける国の一つとなった。

われわれ日本人は、これらの変化がもたらした新たな課題の克服に懸命に取り組み、英知を集めてこれに有効に対応することができた。このことは世界の各国から高く評価されている。

しかしながら、八〇年代にさしかかって、内外の情勢はにわかに緊迫してきた。イランの人質事件、ソ連軍のアフガニスタンへの侵攻、さらには、韓国国内の政情不安など、世界を震撼させる事件が相次いで発生した。また国内においては大幅な原油価格引き上げに伴う物価の上昇が、国民生活に大きな不安を投げかけるにいたった。

八〇年代の今後を考えると、われわれの前途には、きびしい試練が相次ぐものと覚悟せざるをえない。政治は、いまこそ国民の総力を結集してこの試練に立ちむかい、国家の安全、国民生活の防衛、未来の保障を確保できる体制をととのえなければならないのである。

まず第一に、国家の安全とは、国民の生命と財産を守り、自国の自由と独立を確保することである。

アメリカの軍事力と経済力が世界を支えていた間は、わが国は、その力に頼り、国の安全についてさしたる顧慮を払うことなく、経済の拡大に専念することができた。だが、アメリカの力がその圧倒的優位性を失い、しかも、わが国が世界的にその裾野を持つ経済大国となつたいま、わが国はその経済力に応じて、自らの安全と世界の平和のため、応分の責任を求められるにいたつたのである。

われわれは、軍事大国への道を回避しつつ、政治、経済、外交、防衛等の諸力を総合的に活用し、自らの安全を確保するとともに、世界における戦争の発生を未然に抑止しなければならない。また、直接的な侵略の脅威に対しては、日米安全保障条約を基軸とし、質の高い自衛力をもって主体的に対応し、わが国の自由と独立を守らなければならない。

第二は、国民生活の防衛である。

経済の発展はたしかに国民生活の向上をもたらしたが、一方で、人口や産業の都市集中化、核家族化、高齢化等の進行によって、社会の基本秩序は大きく変革しつつある。またその中で、国民の生活観、労働観も変わってきた。

さらに、都市の過密化は公害や災害の危険を増大し、物質的、精神的変化は、国民生活に緊張と不安を招くことになった。

加うるに、近年のエネルギー、資源の高騰に発する物価高は、国民の台所を直撃して、この不安を増幅している。われわれは、国民生活の安定のため、物価総力戦をはじめとする総合的諸施策を強力、大胆に推進しつつあるところである。

また、急速に進行しつつある社会の高齢化は、わが国がかつて経験したことのないものである。われわれは、定年と年金の谷間を埋める社会保障政策を着実に進め、数千万の高齢者に対して生きがいと雇用の場を創出するという歴史的な任務を遂行しなければならない。

第三は、未来の保障である。

未来を脅かす最大のものは、言うまでもなく、エネルギー、資源、食糧、環境等、われわれの前に大きく立ちはだかる制約の壁である。産業の高度化、科学技術の振興は、この壁を打ち破る槌である。明日を考え、明日にそなえる政治は、この槌を鍛えるため、人類の平和を結集するところがなければならぬ。

また、未来を担うものは若者であり、子供たちである。われわれは、自然と文化を大切にし、ふるさとを愛する、たくましい人間が育つよう、教育をはじめ公正盛にあふれる社会環境を整えるとともに、歴史と伝統に培われた美しい日本人の心に思いをよめなければならぬ。

以上、わが国とわが国民の存立にとって最も基本的な国家の安全、生活の防衛、未来の保障というこの三つの安全を確保するには、国民各層の活力と創意を結集することこそ必要である。

だが、われわれは、国民各位にこの結集を呼びかけるに先立って、一つの誓いを実行に移さなければならぬ。すなわち、国民が今日政治に対して抱いている深い不信を解消しうよう、身をもってその証を立てねばならない。わが党は長期にわたる政権担当の間に、情性に流れ、自己革新に必ずしも熱心であったとは言いがたい。度重なる党改革の試みにもかかわらず、いまだに旧来の病弊を脱し切れず、党紀の弛緩はなおその跡を絶たない状況である。

私は、これを機に、全党員が強い反省に立ち、わが党の政治倫理と主体性を確立して、わが党をこの困難な八〇年代に対処しうる新しい政治勢力として甦らせることを誓うものである。

行政もまた国民の信を取り戻さなければならぬ。私は、綱紀を肅正し、行政の肥大化した體質を抜本的に改めることによって、国民に奉仕する行政の体制を確立することを誓いたいと思う。

同志諸君

決意を新たに、過去のよろもろの確執を断ち切り、わが党の清新な政治力を回復し、国民の負託にこたえようではないか。

私は、この党新生の指針として、次の事項を提唱する。

新しい時代にふさわしい基本理念のもと、党の主体性を確立して民意の吸収に万全を期する。

過去の情性を排し、内外の情勢変化に対応しうる新政策を大胆に策定、実施する。

民主的な党運営に徹し、党規の改正、党組織の整備を進め、中央、地方の意思の疎通を図って党を活性化する。

党の支持母体を拡充し、党内外の清新にして多彩な人材の育成、登用を行い、新しい国民政党たるの實をあげる。

清潔にして公正な党風を確立する。政治資金規正法、公職選挙法等の改正を行い、政治腐敗の根源を断つとともに、倫理憲章を定めて実践し、党紀を厳正にして党員の自己改革を推進する。

以上の指針に従って、私は、党の全面的刷新を断行するため、所要の措置を促進する所存である。わが党を、国民の立場に立つ、国民のための、真に国民的な政党に脱皮させるかどうかは、かかって、われわれの無私努力にあると言わねばならない。

同志諸君。

わが党がこれまでわれわれの先達の血と汗の努力の上に、つねに柔軟で進歩的な政策によって、国民とともに築いてきた自由と平和と民主主義は、わが国にとってかけがえのない宝である。

野党の諸君は、いまだにイデオロギー的硬直性と中味のない連合政権の幻想を捨て切れず、相変わらず政府・与党の攻撃に終始している。私は、わが党以外に今日から明日へのわが国の政治を担いつるものはないと信ずる。

きたるべき選挙に総力をあげて必勝を期することこそ、われわれを支持する国民への責務であると思い、  
挙党体制に疑点を残さないよう、派閥の解消に努めることとした。同志諸君の理解と健闘を祈ってやまない。